

日本の受刑者の知能指数

1965年12月

知能指数	偏差値	女子			男子		
		人員	%	計(%)	人員	%	計(%)
130以上	50以上	-	-	4.6%	107	0.2%	14.5%
120~129		-	-		414	0.8%	
110~119		9	0.8%		1,732	3.5%	
100~109		43	3.8%		4,937	10.0%	
90~99	30以上50未満	108	9.5%	95.4%	9,688	19.7%	85.5%
80~89		190	16.8%		12,233	24.8%	
70~79		258	22.8%		9,463	19.2%	
60~69		217	19.1%		6,221	12.6%	
50~59	30未満	170	15.0%		2,687	5.5%	
49以下		138	12.2%		1,791	3.7%	
総数		1,133	100.0%	100.0%	49,273	100.0%	100.0%

男女ともに知能指数の高いものはきわめて少なく、特に女子の受刑者は男子受刑者に比較して知能指数の低い者が多く、知能指数60から89のものが半数以上であり、知能指数59以下の者も27%に達している。

2012年(年間総数)

知能指数	偏差値	人員	%	計(%)
120以上	50以上	53	0.2%	7.2%
110~119		288	1.0%	
100~109		1,757	6.1%	
90~99	30以上50未満	4,970	17.2%	92.8%
80~89		7,039	24.3%	
70~79		6,726	23.2%	
60~69		3,729	12.9%	
50~59	30未満	1,742	6.0%	
49以下		1,232	4.3%	
測定不能		1,427	4.9%	
総数		28,963	100.0%	100.0%

- 「%」の小数第2位は四捨五入で算出しています。
- 「偏差値」は知能指数に対応させて加筆しました。
- 「計(%)」は偏差値50以上と50未満で分けて集計したものを加筆しました。

日本の刑務所の場合、受刑者となったものはまず知能指数の検査を受ける必要があり、その結果は法務省が発行する矯正統計年報に公表される。2012年の数字では新受刑者総数28,963人のうち8,130人、全体の28.1%が知能指数69以下の受刑者ということになり、さらに測定不明者の1,427人を加えると、全体の28.1%(約4分の1強)の受刑者が、知的障害者として認定される人たちである。

法務省司法法制部は、矯正統計調査を発表しており、その中には「新受刑者の罪名別 知能指数」という統計表を公開している。

学業成績を介する影響

低知能指数が学業成績の低下に影響し、さらにドロップアウトにつながって非行仲間への接触へと発展していくというプロセスが、知能指数と非行の親和性を説明するうえで最も頻繁になされてきた。知能指数が学業成績を介して犯罪行動に影響を与えるという概念を公式統計に基づく158の研究のうち89%が、そして自己申告調査研究のうち77.7%が支持している。そして、GPAと反社会的行動の関連性を検証した全46の研究は、両者が強く関連していることを明らかにしている。GPAのような学業達成度の実測値の方が知能指数よりも反社会的行動の予測因子として優れているのは、学業達成度というものが、知能指数に加えてそのほかの数多くの要素(学習態度、向上心、両親)が含まれているからであると考えられている。

注) GPA…Grade Point Averageの略。各科目の成績から特定の方式によって算出された学生の成績評価値のこと。文部科学省によるとGPA制度を導入している日本の大学は平成17年度には248大学(全体の35%)であったが、平成23年度に453大学(全体の61%)となっている

「偏差値」を読み解く際の目安について

60以上…高知能。40以上60未満…正常。30以上40未満…境界線。30未満…知的障害。